

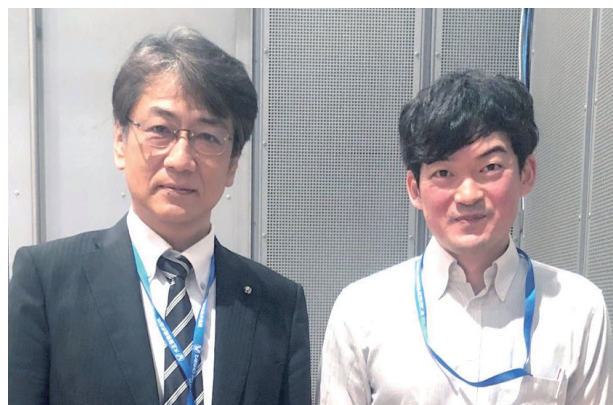
淡青基金を活用した手術見学の経験

横浜市立大学附属病院 整形外科 佐原 輝

私は淡青基金を活用して手術見学の機会を頂きました。淡青基金はまだ始まったばかりの制度で、リウマチ外科を目指す若手医師に国内留学（手術見学など）等の費用を助成する制度です。今回私は岡山大学西田圭一郎先生に手術見学を依頼させて頂き、2022年7月に見学の機会を得ることができました。朝から手術見学の予定だったため、前日に神奈川県を出発し、夕方に岡山駅に到着しました。岡山駅付近に宿泊し、岡山大学附属病院のリウマチ手術の見学をさせて頂きました。

手術の内容としては手関節形成術と手指伸筋腱断裂、指人工関節を同時に施行した難易度が高い手術でしたが、ロジカルで素早い手術の進行は鮮やかで美しく大変勉強になりました。腱の緊張や、先生方の美しいメスの所作は実際に見ておかないとわからないこともあることを実感し非常に有意義な見学・研修でした。1泊2日の見学・研修日程であり、交通費・宿泊費を含めてリウマチ外科学会から助成して頂き、淡青基金は大変有難いシステムでした。

私は現在整形外科7年目の未熟者ですが、今後リウマチと手外科を専門にしていきたいと考えております。現在の整形外科医の専門システムは部位ごとに特化しておりますが、今年度のリウマチの外科学会でも話題になったように、リウマチ外科医はリウマチ+専門部位をもつのがよろしいのではないかとのご意見がありました。患者さんのお困りの症状は疼痛から機能障害に移行しつつある中で、手足等の末梢関節では整形外科医の果たす役割は特に大きい



左は西田圭一郎先生、右は筆者

と感じております。手術に限らず、日常外来診療の中で関節炎の鑑別診断の幅が広がることもリウマチ外科医のメリットだと考えております。私の同級生の中ではリウマチを専門にしたいと考える若手は少ないのが現状ですが、特に手足を専門とする整形外科医にとってリウマチの知識は必須ではないでしょうか。ただ、若手にとって現在 COVID-19 のため海外留学の機会も減る中で、学ぶ機会が減っているのも確かです。そのような環境の中で淡青基金という素晴らしい制度ができたことは国内のリウマチ外科医でレベルアップを図るにあたり重要な意味があると考えております。

最後になりましたが、手術のご指導を頂いた岡山大学西田圭一郎先生、那須義久先生にはこの場をお借りして感謝申し上げます。また、淡青基金を作ってくださったりリウマチ外科学会のスタッフの方々にお礼を申し上げます。